

令和6年度 第1回 大船渡市地域医療懇話会 会議録

1 日 時

令和6年10月30日（水） 午後6時30分～午後8時10分

2 場 所

大船渡市総合福祉センター 大会議室

3 出席者

○ 委員（14人）

鵜浦哲朗委員、及川理委員、金野良則委員、中野達也委員（代理 村上雅彦氏）、高橋美保委員、柴田繁啓委員（代理 佐々木達也氏）、新沼晃委員、菊池一夫委員、千田富士夫委員、石橋厚子委員、菅原圭一委員、畠山政平委員、川村伸子委員（代理 竹野武子氏）、佐藤高廣委員

○ 市長

○ 事務局

安居清隆市民生活部長、佐々木直央国保医療課長、佐々木卓也長寿社会課長、藤田一枝健康推進課長、新田進国保医療課係長、藤原美子同係長、中嶋聖志同係長、成井悠祐同主事

4 懇話会の概要

【1 開会】

国保医療課長の進行により開会。

【2 委嘱状交付】

国保医療課長が、名簿により大船渡市地域医療懇話会委員を紹介した後、委員を代表して、鵜浦哲朗委員に市長から委嘱状を交付した。

【3 市長あいさつ】

あいさつ要旨は、次のとおり。

- ・当市は、人口減少や少子高齢化の進展により、医療人材の不足、医療DXへの対応、在宅医療など多くの課題に直面しており、地域医療体制の抜本的な改革が求められている。
- ・本懇話会は、医療関係者や住民代表の皆様から多様な意見を伺い、市の医療施策に反映することを目的としている。
- ・限られた医療資源を有効に活用し、持続可能な医療体制の確保に向けた現実的な提案を期待する。

（市長は、あいさつ終了後、別用務のため退席。）

【4 会長及び副会長の選出】

会長に鵜浦哲朗委員、副会長に及川理委員を選出した。

会長からあいさつがあった。要旨は次のとおり。

- ・日本全国で少子高齢化が進み、医療過疎や独居老人の問題が生じている。
- ・人口減少は医療だけでなく、教育や経済、行政運営にも影響を与えるため、早急な対応が求められる。
- ・本懇話会は、当地域の医療体制を持続可能なものとするため、問題点を洗い出し、改善の方向性を見出すよう、参考となる意見を集約していきたい。
- ・本日は、現状の共有に主眼を置くが、今後も委員の活発な意見を願う。

(以降は、会長が議長となって進行。)

【5 議題】

(1) 当市の医療を取り巻く環境について

資料により事務局から説明。説明に対する質疑や意見等は、次のとおり。

(委員) 人口動態の資料のうち社会動態について、令和元・2年において転出が大きく減っている理由はないか。

(事務局) コロナ禍による異動制限や復興需要の終息などが要因となっているのではないか。

(委員) 薬局の業務から本日のテーマを考えると、患者さんから交通のアクセスが悪いと聞く。また、ドラッグストアも増えているが、市販薬の購入など病院にかかる前にアクセスする場としての薬局は、多くが医療機関の側にあり配置に偏りがある。

医療費では、ジェネリック医薬品の普及率は既に8割を超えており、今後は、適正な薬の使い方、管理の仕方の指導などの役割を担っていく。

(委員) 気仙圏域内では高血圧や脳卒中、糖尿病が多い。看護協会では、気仙地区で開催する健康相談会等で地域住民への健康に対する意識付けを行うなどしていきたい。

(委員) 近年の異常気象による自然災害の発生や新しいウイルス発生など、消防を取り巻く環境が変化している。今年度、消防指令センターの設備を更新し、聴覚や言語機能に障害がある方への「ネット119^{※1}」と、現場を撮影しながら通報する「ライブ119^{※2}」のシステムを構築している。県立大船渡病院と連携したドクターカーの運用と、11月1日から「DNAR^{※3}」を正式運用する。県で進める「#7119^{※4}」を皆様の協力を得ながら進めていく。

※1 音声による119番通報が困難な聴覚・言語機能障害者が、円滑に消防への通報を行えるようにするシステム

※2 119番通報時、音声のみでは伝えることの難しい事故等の状況をスマートフォンのカメラ機能を使い、映像を加えることによって、より正確な情報をリアルタイムに伝えることができるシステム

※3 患者本人、または、患者の利益に関わる代理者の意思決定を受けて、心肺蘇生法を行わないこと

※4 「救急安心センター事業」といい、救急車を呼んだほうがよいか、病院に行ったほうがよいかなど、判断に迷ったときに、専門家からアドバイス

を受けることができる電話相談窓口

(委員) 介護の業務の中で、介護が必要な方や高齢者が生活全般で困っていること等を聞きながら、必要なサービスに繋いでいる。

岩手県は医療過疎と言われている。

三陸町は、市の中心部と比べアクセスが悪く、大船渡病院まで遠距離となっている。市では、デマンド交通などの施策を行っているが、必要なときに必要なサービスが受けられないところがある。

資料から、三陸町の人口減少、高齢化の状況に驚いた。

医療供給体制にも限界があり、行政機関等の効率化も必要だが、必要な人に必要なサービスが行き届くよう、議論を進めてほしい。

(委員) 少子化が大きな社会問題となり、国も子どもを育てやすい環境づくり等の様々な施策を行っている。市内の医療機関で、大船渡病院以外の産婦人科がない。陸前高田市、住田町、大槌・山田・岩泉町、田野畑村にもなく、妊婦さんは不安ではないか。

子どもを育てる環境も必要だが、産む環境も必要ではないか。

産婦人科医になりたい人が少ないと聞く。

大船渡病院には、気仙地域の中核病院として、産婦人科を存続させてほしい。

(委員) 高齢者等の困り事としては、通院手段の確保が一番のネックと思う。一人暮らしや、高齢となり免許返納した方などは、通院が大変である。他市では、市営バスを巡回しているところもある。

また、奨学金を使って医師を目指している学生たちが、大船渡に戻って来られるような方策を考えてほしい。

(委員) 高齢化率が高くなり一人暮らし老人も増えている状況で、まちづくりに必要なマンパワーが低下している。意欲のある高齢者にまちづくりに参画してほしいとの思いがあり、高齢者には健康でいてほしい。

そこで、高齢者に優しい、配慮した保健医療を一層推進してほしい。具体的には、交通手段の確保をお願いしたい。

地区の東日本大震災で被災したエリアでは、店舗も少なく金融機関もATMが1つと、買い物等何をするにも出かけなければならない。日常の買い物で困っている人もいるので、交通手段の確保をお願いしたい。

(委員) 資料に「気仙医療圏の入院の地域完結率が58.7%で県内2次医療圏の中で最も低い」とある。入院に関する地域完結率が低いということは、どういうことか。

(事務局) 病院に入院された後、回復期にリハビリ等で市外の病院や施設に入ることが多いと聞く。

(委員) 事故で入院した知人が、「次の病院を探してください」と言われた。県の計画にはQOL^{※5}に配慮したクリニカルパスの運用とあるが、これに矛盾しないのか。患者さんの家庭事情も考慮して、優しさを持った医療の提供ができないものか。

※5 QOL=Quality of life (クオリティ オブ ライフ)
は、「生活の質」や「生命の質」などと訳され、患者の身体的な苦痛の軽減、

精神的、社会的活動を含めた総合的な活力、生きがい、満足度といった意味合いがある

- (委員) 県立大船渡病院は、病棟閉鎖により、療養型の入院の対応が難しくなっている。医療完結率が低いというのは、急性期を過ぎた後の患者さんを診る医療施設がこの地域に少ないということ。状況による配慮はすべきだが、現状では優先順位を付けざるを得ない状況である。

- (委員) 低所得世帯について、事後支払いを許容するなどの配慮を行っている医療機関もある。

大船渡病院で救急医療が行われていることで、安心感がある。

世帯収入の低さから、受診料や交通費を捻出できず、受診できない人もいる。障害者年金受給手続きのための診断書料が払えず、年金の受給が遅れ生活に支障があった人もいた。また、診断書発行までに時間がかかるケースも見受けられる。

独居の高齢者等には、夜間に救急外来を受診した際、軽症でも深夜の帰宅が困難なケースがある。

- (委員) 未来かなえネットは、医療情報の連携や産婦人科・小児科オンラインを利用できるなど、良いシステムなので、利用者、加入施設を増やしたい。

- (委員) 県の保健医療計画が策定された。市・町が身近な行政として進める医療施策をサポートしていきたい。

地域の課題として、医療資源・人口の減少、高齢化等があり、圏域の医療施策に取り組んでいきたい。

- (委員) 入院の地域完結率が低い原因として、全ての診療科がそろっていないこともあり、内陸の専門医で治療している患者さんもいる。慢性期、リハビリの受け皿の課題が解決されればよいのだが、現状では厳しい状況。

県立病院の経営改善を行っていかなければならず、機能を集約していく方向の中で、大船渡病院は、比較的、機能を維持する方向となっている。

今後、人口減少が進んだとき、現状のまま維持し続けられるかは見通せない。

在宅で受け入れる仕組みを整えるにも訪問診療を担当できる医師が少なく、今後、どのような形を目指すのか相談していく必要がある。行政や地域の皆さんとの風通しの良い懇談を行いながら、地域の声として施策に反映させていくことが大事である。

ドクターカーや産前産後の取組など、改善できるところ、具体化できることを積み重ねていくことも大切である。

人材育成も課題である。オープンホスピタルや市民講座などを行い、高校生が地元の医療に触れる取組も行っている。

- (委員) 気仙は、震災前と比べると環境が全く変わっている。

県歯科医師会では、県薬剤師会、県看護協会と本日のような会議を行っているので、大船渡市に役立つ情報を提供していきたい。

人口減少が医療に与える影響等について、この会で忌憚のない意見を

出して、市民が快適で安心して暮らせるよう、ある程度の指針を出して
いけると良い。

(会 長) 本日出された意見を整理して、次回以降の会に活かしていきたい。

(2) その他

特になし。

(進行が事務局に移る。)

【6 その他】

市民生活部長が、所感を述べた。

- ・現在、大船渡市総合計画の後期基本計画の策定作業を行っており、懇話会の意見も参考としたいと考えている。
- ・本日の意見を今後精査し、テーマを絞りながら効率的に次回以降の懇話会を開催したいと考えており、市の各種計画に反映することも目指したい。

事務局から、次回の開催に向け、委員や市民の皆様にアンケートをお願いするなどして情報収集を行いたいこと、第2回懇話会は、年明けの1月下旬から2月上旬を予定し、次回は具体的なテーマ等をお知らせした上で開催することを委員に伝え、閉会とした。